

北 広 島 消 防 の 歴 史

私設消防時代

- 大正 2 年 5 月 広島村初の火防組合と消防組が結成された。
- 大正 7 年 3 月 火防組合が解散し、これに代わり私設消防組が発足、消火資器材としては、トビ、布袋等を使用したと伝えられる。
- 昭和 9 年 7 月 消防組が改組され、消火機材に腕用ポンプを導入した。
- 昭和 10 年 4 月 寄付等で運営されていた消防組に村費より初の補助があり、新たに腕用ポンプ及びホース、布製タンク、布製バケツ等を購入した。

公設消防時代

- 昭和 12 年 2 月 議会で広島村消防組の設置が決定され、東部地区に第 1 分団、西部地区に第 2 分団を配置した。
- 昭和 14 年 4 月 戦時態勢により消防組と防護団が併合され広島村警防団を設置し、火防の他、灯火管制、警報を任務とした。
- 昭和 22 年 7 月 終戦により広島村警防団が解散し、新たに広島村消防団を設置した。
- 昭和 24 年 3 月 初の消防ポンプ自動車（三輪車）が導入され第 1 分団に配置した。また、腕用ポンプは第 2 分団に配置した。
- 昭和 27 年 12 月 広島 6 3 番地に第 1 分団の総合的な消防会館が竣工し、機材置場及び管理人住宅を併置した。
- 昭和 28 年 2 月 ポンプ自動車（四輪車）を第 1 分団に配置し、三輪自動車は廃車。
- 昭和 32 年 2 月 可搬動力ポンプを第 2 分団に配置した。
- 昭和 33 年 2 月 可搬動力ポンプを第 1 分団に配置した。
- 昭和 34 年 3 月 第 2 分団にポンプ運搬用の三輪自動車を配置した。
- 昭和 40 年 8 月 第 2 分団の機材置場を改築し、四輪ポンプ自動車を配置した。
- 昭和 43 年 1 月 大曲地区の発展に伴い第 3 分団を配置した。
- 昭和 47 年 4 月 西の里地区の発展に伴い第 4 分団を設置した。

近代消防時代

- 昭和 49 年 4 月 町の発展に伴い広島町消防本部及び消防署が、政令による常備体制の指定に基づき発足した。
- 昭和 49 年 12 月 消防庁舎が現在の北進町 1 丁目に竣工した。
- 昭和 50 年 8 月 署に救急車を配置し救急業務を開始した。（車両は北海道共済連より寄贈された）
- 昭和 52 年 3 月 小型動力ポンプ付水槽車（水槽容量 10t）を配備した。（防衛施設庁の補助による）
- 昭和 52 年 7 月 町内の医療施設により内科、小児科の夜間休日の当番医療体制が開始され救急医療体制が充実した。
- 昭和 52 年 12 月 はしご付き消防ポンプ自動車（30m級）を配備した。
- 昭和 54 年 8 月 北海道消防協会札幌地方支部消防総合訓練大会を当町（広葉中学校）で開催した。
- 昭和 54 年 10 月 道央自動車道の札幌南インターチェンジと北広島インターチェンジ間の開通により、第 3 分団詰所に職員 3 名と救急車 1 台を常駐させた。
- 昭和 55 年 12 月 大曲地区の発展に伴い、消防署大曲出張所を開設（第 3 分団詰所併置）し職員 11 名と水槽付ポンプ自動車、救急車、ポンプ自動車（第 3 分団）を再配置した。
- 昭和 56 年 4 月 夜間急病センターが開設（診療科目は内科、小児科）された。
- 昭和 56 年 6 月 予防業務の拡充に伴い広報車を導入した。
- 昭和 57 年 9 月 無線電話の基地局を富ヶ岡（北広島リハビリセンター）から大曲（大曲出張所）に移設した。
- 昭和 57 年 10 月 消防指令装置（I 型）を導入した。

昭和58年7月 全道消防救助技術訓練指導会に初参加した。

昭和58年8月 消防無線電話装置に全国共通波（基地局は、消防本部）を装備した。

昭和62年7月 消防署の機構改革により副署長を配置した。

平成2年3月 消防署に救助工作車を配置した。

平成2年10月 消防署の気象観測装置を更新した。

平成4年8月 無線サイレン吹鳴装置を更新した。

平成5年4月 在宅当番医の自動案内装置が導入され、運用を開始した。

平成5年6月 消防無線電話装置基地局（全国共通波）を更新した。

平成5年12月 西の里地区の人口増加に伴い、消防署西の里出張所を開設（第4分団詰所併設）し、水槽付ポンプ自動車に配置した。

平成6年5月 救急救命士第1号が誕生する。

平成6年11月 救急車2台に患者監視装置が装備され、応急処置拡大9項目中7項目実施体制となる。（心電図電送を除く）

平成8年6月 消防団に初めて女性消防団員10名を採用した。

平成8年8月 全国消防救助技術大会（札幌市）に初参加した。

平成8年9月 市制施行に伴い、北広島市消防本部と名称変更した。

平成8年10月 消防職員委員会が発足した。

平成13年3月 第1分団詰所を改築した。

平成13年7月 消防署の水槽付消防ポンプ自動車を化学消防ポンプ自動車に更新し、はしご付消防自動車（38m級）を更新した。

平成13年8月 札幌圏防災関係機関合同訓練を実施した。（大曲工業団地）

平成14年3月 消防本部・消防署の増築庁舎が完成した。（RC3階建 1,361.44㎡）

平成14年6月 北海道消防協会札幌地方支部消防総合訓練大会を当市で開催した。

平成15年3月 消防緊急通信指令施設（Ⅱ型）を導入、運用を開始する。

平成15年11月 大曲出張所の救急車を高規格救急車に更新した。

平成17年12月 本署の救急車（高規格救急車）を更新した。

平成19年4月 非常時の災害復旧の拠点として北広島市防災センターが共栄586-10に設立された。

協力団体関係

昭和59年1月 大曲地区に婦人防火クラブを結成した。

昭和59年5月 広島町防火委員会を結成した。

昭和59年9月 東部地区に幼年消防クラブを結成した。（広島大谷幼稚園）

昭和60年7月 大曲地区に幼年消防クラブを結成した。（大曲大谷幼稚園）

昭和60年10月 東部地区に幼年消防クラブを結成した。（広島幼稚園）

昭和60年12月 ひろしま少年消防クラブを結成した。

昭和61年3月 東部地区に婦人防火クラブを結成した。

昭和62年10月 西の里地区に幼年消防クラブを結成した。（西の里保育園）

昭和63年5月 広島町危険物安全協会を設立した。

平成元年10月 日本防火協会より幼年消防クラブ（広島大谷幼稚園）に鼓笛隊セットが寄贈された。

平成4年2月 東部地区に幼年消防クラブを結成した。（天使幼稚園）

平成4年10月 日本防火協会より幼年消防クラブ（大曲大谷幼稚園）に鼓笛隊セットが寄贈された。

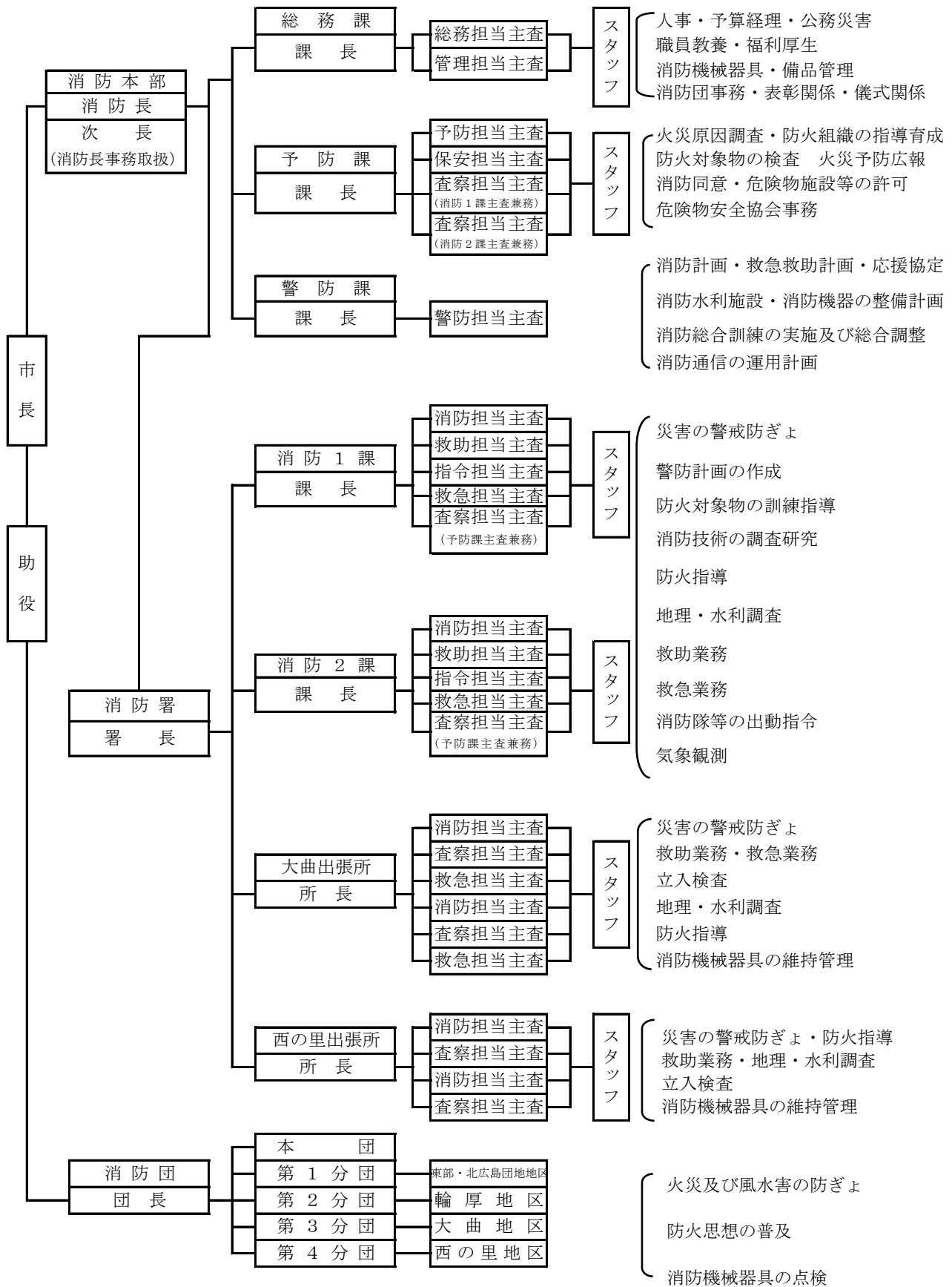
平成5年9月 第11回婦人防火全国大会（夕張市）に2婦人防火団体が出席した。

平成11年5月 輪厚地区に幼年消防クラブを結成した。（輪厚保育園）

過去の主な災害記録

- 明治31年9月7日 中の沢に水害が発生した。
- 大正3年8月 中の沢地区に水害が発生し、水10尺余、被害面積300町歩
～9月 余、被害総額3,434円。
- 昭和14年4月 児童福祉施設天使の園全焼197坪を焼失した。原因は失火。
- 昭和15年4月24日 広島市街（現宇広島）の大火、16戸28棟焼失し近隣の消防
の応援を受けた。原因は不明。
- 昭和21年4月 中ノ沢地区に水害が発生し604町歩が冠水し、被害総額
6,030千円。
- 昭和23年4月7日 吉本宅及び杉山宅の2戸1棟が全焼し22.5坪が焼失した。
- 昭和25年8月1日 開村以来の水害。降雨量300mmを超え、広島市街及び中の沢
～3日 地区にかけ被害発生し、家屋流失、半壊13棟等で被害総額31,
877千円。
- 昭和27年7月2日 富ヶ岡学園の寮舎454坪のうち210坪が焼失した。恵庭・
島松消防、警察予備隊の応援を受けた。
- 昭和29年9月26日 台風15号の影響で死者1名、建物全半壊340棟、農林等被
害総額66,300千円。
- 昭和30年12月 光顕寺本堂100坪を全焼、原因はローソク。
- 昭和34年9月 中の沢地区と各河川流域で水害、被害面積500町歩、特に土
木農林施設に被害が多く、被害総額は9,037千円。
- 昭和37年8月 台風9号及び10号の影響により中の沢地区が冠水した。
- 昭和39年6月 集中豪雨により中の沢地区が冠水した。
- 昭和40年9月 台風23号の影響により中の沢地区が冠水した。
- 昭和43年5月 十勝沖地震により全村に被害があり、特に集合煙突の倒壊が目
立った。震度は4.5から5と推定される。
- 昭和50年8月22日 台風6号の影響により水害が発生、輪厚川及び千歳川が氾濫し
～23日 た。被害面積506ヘクタール、被害総額192,229千円。
- 昭和56年8月3日 約3週間に渡り、台風15号及び23号の影響及び雨の影響で
～23日 島松川及び輪厚川の堤防が決壊した。
- 昭和59年6月2日 大曲にある病院の職員送迎バスが野津幌川に転落し、看護婦ら
36名が重軽傷を負った。
- 昭和62年8月25日 台風12号の影響で豪雨（298mm）があり、土木及び農業施
～26日 設に被害が発生した。被害総額162,133千円。
- 平成2年10月7日 町立の中学校で火災が発生し校舎137平方メートルが焼失し
た。被害総額21,100千円。
- 平成3年8月9日 南里酪農家の牧草収納庫から出火、牛舎、物置等4棟全焼した。
被害総額は53,062千円。
- 平成5年9月13日 大曲工業団地で倉庫の全焼火災があり、鎮火まで約10時間を
要した。被害総額420,150千円。
- 平成16年9月8日 台風18号の影響により突風で飛ばされるなど4名の市民が重
軽症を負う。また野菜の倒伏、街路樹の倒木等の被害が発生し
た。被害総額140,247千円。

組織及び事務分掌



消 防 力 と 消 防 予 算

消防力と人口比較

(平成17年4月1日現在)

	消 防 職 員 1 人 当 り	消 防 団 員 1 人 当 り	消 防 自 動 車 等 1 台 当 り
面 積	1. 3 2 km ²	1. 1 6 km ²	6. 9 7 km ²
人 口	6 7 0 人	5 9 1 人	3, 5 4 6 人
世 帯	2 6 7 世帯	2 3 6 世帯	1, 4 1 3 世帯

当初予算

単位：千円

年 度	一般会計	消 防 費					一般会計 の比率 (%)	市民1人 当り (円)	1世帯当 り (円)
		常 備	非常備	施 設	救 急	合 計			
16	18, 800, 494	783, 941	19, 708	2, 215	8, 677	814, 541	4. 33	13, 658	34, 787
17	18, 867, 590	887, 091	19, 791	1, 107	41, 145	949, 134	5. 03	15, 747	39, 501
比較	67, 096	103, 150	83	▲ 1, 108	32, 468	134, 593	0. 70	2, 089	4, 714

決 算

単位：千円

区分 年度	一般会計	消 防 費					一般会計 の比率
		常 備	非常備	施 設	救 急	合 計	
平成15年度	17, 146, 959	770, 882	18, 924	8, 634	32, 817	831, 257	4. 85%
平成16年度	19, 450, 399	819, 493	19, 716	2, 215	8, 919	850, 343	4. 37%
比 較	2, 303, 440	48, 611	792	▲ 6, 419	▲ 23, 898	19, 086	▲ 0. 48%

教育等派遣状況

課程		年度	13	14	15	16	17	合計	
職員	消防大学 専科課程							0	
	初任教育		1	2	4		1	8	
	専科教育	警防科	警防課程						0
			無線通信課程	1	1	1	1		4
		予防科	予防課程			1	1		2
			危険物課程						0
			火災調査課程	1	1	1	1	1	5
		救急科	救急Ⅱ課程	1	2				3
			救急標準課程			2	2	4	8
	救助科		2	1	2	2	2	9	
	幹部教育	幹部科						0	
	特別教育	はしご自動車運用課程		2	1			2	5
		救急高度課程				1			1
		気管挿管講習					1	1	2
	救急救命士養成課程		1	1		1		3	
	北海道自治政策研修センター		法制	1					1
	大型自動車免許取得			3	1		1	1	6
団員	幹部教育課程		1				1	2	
	普通教育課程		1	1	1	1	3	7	
	現地教育訓練		20	19	22	13	20	94	

職 員 資 格 取 得 状 況

階 級 資 格			消 防 監 (1)	司 令 長 (1)	司 令 (6)	司 令 補 (25)	士 長 (43)	消 防 士 (12)	そ の 他 (1)	合 計 (人)
運 転 免 許	大 型	1・2種		1	6	25	43	3		78
	普 通	1・2種	1					9	1	11
	大 型 特 殊				1	6	1	1		9
救 急 資 格	I 課 程				4	3				7
	II 課程・標準課程				2	14	29	1		46
	救 急 救 命 士					5	6	4		15
救 助 資 格				1	1	11	14	2		29
玉 掛 技 能				1	5	22	41	2		71
小 型 移 動 式 ク レ ー ン					5	25	41	3		74
酸 素 欠 乏 危 険 作 業 主 任 者 (1・2種)				1	4	17	4	1		27
ガ ス 溶 接 技 能				1	2	22	23	2		50
ア ー ク 溶 接 技 能						2				2
特 殊 無 線 技 師 (電 話 級 含)					4	17	6			27
危 険 物 取 扱 者	甲 種			1		1	1			3
	乙 種				3	13	20	6		42
	丙 種						1	2		3
消 防 設 備 士	甲 種					1				1
	乙 種			1		2	1	1		5
消 防 設 備 点 検 資 格 者										0
小 型 船 舶 操 縦 士 (5 級 以 上)						7	9			16
第 1 種 衛 生 管 理 者						1	1	1		3
自 動 車 整 備 士 (2・3 級)				1		2	1			4
車 両 系 建 設 機 械 運 転 技 能						2	2			4

消 防 施 設

庁 舎

名 称	所 在 地	構 造	敷地面積	面積 (㎡)		竣 工
				建築面積	延べ面積	
消 防 本 部 消 防 署	北進町1丁目 3番地1	鉄筋コンクリート (3階建)	2,994.96	1,051.88	2,224.51	昭和49年12月 (平成14年3月増築)
大曲出張所 第3分団 (併置)	大曲中央2丁目 2番地2	鉄筋コンクリート (2階建)	818.00	233.00	322.00	昭和55年12月
西の里出張所 第4分団 (併置)	西の里東1丁目 4番地20	鉄筋コンクリート 一部コンクリートブロック (平屋一部2階建)	1,398.02	458.16	466.98	平成5年12月
第1分団	共栄町1丁目 1番地1	コンクリートブロック (2階建)	389.76	92.15	180.26	平成13年2月
第2分団	輪厚中央4丁目 14番地3	コンクリートブロック (平屋建)	823.96	120.00	120.00	昭和56年10月

消防水利

種別 地区	消火栓	防火水槽	合 計	前 年 比		備 考
				前 年	増 減	
東 部 地 区	149	21	170	165	5	※消火栓 単口 429基 双口 55基 ※防火水槽 東部地区2基、輪厚地区1基に20㎡のものが設置されている。
北 広 島 団 地	123	4	127	127	0	
輪 厚 地 区	31	10	41	41	0	
大 曲 地 区	142	28	170	170	0	
西 の 里 地 区	39	13	52	52	0	
合 計	484	76	560	555	5	

消 防 車 両

	種 別	車 名・型 式	取 得 年 月 日	性 能 等 ・ 放 水 量
本 部	指 揮 車	いすゞ KH-UBS73GWカイ	平成10年 9月	4WD AT
	広 報 車	マツダ E-SSE8Rカイ	平成 2年10月	4WD
	連 絡 車	トヨタ KC-LH119カイ	平成 9年 9月	4WD AT
消 防 署	水槽付ポンプ車	三 菱 KC-FK618Gカイ	平成 8年 3月	級別 A2 規格放水量 (2.3m ³ /min) (水Ⅰ-A) 水1,500ℓ 小型ポンプ (B-2) 積載
	化学消防ポンプ自動車	日 野 KG-FH2PHGAカイ	平成13年 7月	級別 A2 規格放水量 (2.4m ³ /min) (水Ⅱ) 水3,000ℓ 薬液500ℓ
	小型ポンプ付 水 槽 車	いすゞ U-CXZ71JDカイ	平成 5年 2月	級別 B2 規格放水量 (1.2m ³ /min) (Ⅱ) 水10,000ℓ
	救 助 工 作 車	いすゞ P-FTR13HAカイ	平成 2年 3月	(Ⅱ)
	は し ご 付 消 防 自 動 車	日野 KL-PR4FPHF	平成13年 7月	38m級
	高規格救急車	日産 TC-FPWG50カイ	平成17年12月	4WD パラメディック
	高規格救急車	いすゞ KC-NPS71LNカイ	平成 9年 2月	4WD スーパーメディック
出 張 所	水槽付ポンプ車 大曲出張所	日野 U-FH2KLBAカイ	平成 7年 3月	級別 A2 規格放水量 (2.4m ³ /min) (水Ⅱ) 水3,000ℓ
	水槽付ポンプ車 西の里出張所	日野 U-FH2KLBAカイ	平成 5年12月	級別 A2 規格放水量 (2.4m ³ /min) (水Ⅱ) 水3,000ℓ
	高規格救急車 大曲出張所	日産 TC-FPWG50カイ	平成15年10月	4WD パラメディック
	第1 分団	水槽付ポンプ車	いすゞ P-FRR12Fカイ	昭和60年10月
第2 分団	ポ ン プ 車	トヨタ kk-XZU372	平成12年 3月	級別 B2 規格放水量 (1.4m ³ /min) 小型ポンプ(B-2) を積載
	ポ ン プ 車	いすゞ 4WD P-FRS12EAカイ	平成 2年12月	級別 A2 規格放水量 (2.0m ³ /min) (CD-Ⅱ) 小型ポンプ(B-3)を積載
第3 分団	ポ ン プ 車	ニッサン P-CM87Bカイ	昭和62年11月	級別 A2 規格放水量 (2.4m ³ /min) 小型ポンプ(B-3) を積載
第4 分団	水槽付ポンプ車	いすゞ P-FRR12FAVカイ	昭和63年10月	級別 A2 規格放水量 (2.3m ³ /min) (水Ⅱ) 水2,000ℓ

団 員 状 況

団 員 数

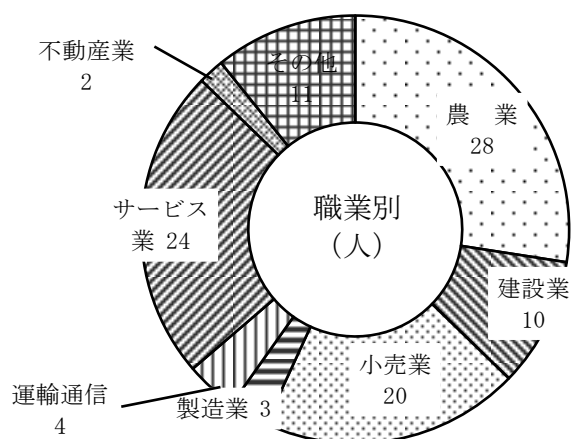
(平成17年4月1日現在)

階級 組織	団 長	副 団 長	分 団 長	副 分 団 長	部 長	班 長	団 員	合 計	前 年 比		定 員
									前 年	増 減	
団本部	1	2				(女性) 2	(女性) 7	12	12	0	13
第1分団			1	1	2	7	23	34	33	1	37
第2分団			1	1	1	5	14	22	25	▲ 3	25
第3分団			1	1	1	4	12	19	18	1	20
第4分団			1	1	1	5	7	15	17	▲ 2	25
合 計	1	2	4	4	5	23	63	102	105	▲ 3	120

団 員 年 齢

階 級 年齢別	団 長	副 団 長	分 団 長	副 分 団 長	部 長	班 長	団 員	合 計	前 年 比	
									前 年	増 減
60歳 以上	1	2	4	3	4	12	7	33	34	▲ 1
50歳～59歳				1	1	8	17	27	29	▲ 2
40歳～49歳						3	18	21	22	▲ 1
30歳～39歳							17	17	18	▲ 1
20歳～29歳							4	4	2	2
20歳 未満								0	0	0
合 計	1	2	4	4	5	23	63	102	105	▲ 3
平 均 年 齢	67	68	66	64	64	53	43	53	53	/

団員勤続年数・職業別状況



団員勤続年数

(平成17年4月1日現在)

年数 \ 階級	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	合計
40年以上	1			1		1	2	5
35年～39年		1	3	2		4	1	11
30年～34年		1	1	1	4	8	1	16
25年～29年					1	5	5	11
20年～24年							5	5
15年～19年						2	9	11
10年～14年							9	9
5年～9年						2	10	12
5年未満						1	21	22
合計	1	2	4	4	5	23	63	102
平均	50	36	35	39	31	31	12	21

団員職業別

区分 \ 組織	農業	建設業	小売業	製造業	運輸通信	サービス業	不動産業	その他	公務員	合計
団本部	1		1	1		1	1	7		12
第1分団	5	3	15	1		8	1	1		34
第2分団	12	1			4	5				22
第3分団	4	3	3			7		2		19
第4分団	6	3	1	1		3		1		15
合計	28	10	20	3	4	24	2	11	0	102